

1 ディレクトフォース

朝ニュースを眺めるだけでも様々な外交問題が耳に入ってくる現代。「グローバル化」という言葉が多用される中で、商社訪問には非常に関心があった。

三菱商事を訪れて、社員一人一人が各部門の開拓者という役割を担っていると分かった。貿易といえばアメリカや中国といった大国との取引にしか目を向けたことがなかった私にとって、モザンビーク共和国での金属資源ビジネスが印象的であった。所得や識字率が日本を大きく下回る国で、工場建設や資源生産から携わるというのは、自ら今後の経営の基盤を作る新鮮な発想だと感じた。また、それが雇用創出等の地域貢献に役立っていると聞き、相手国の成長を助け、良い関係を築くことは、需要が高い工業資源の継続的な取引を支えることになると思った。

さらに、経済活動のノウハウを踏まえた国内地域の支援活動を行っていることも分かった。東北の復興のため、地方公共団体や銀行と協力して地場産業を盛り上げ、地元利益を還元する仕組みは、単に寄付するよりも、各機関が役割を果たすという意義を大切に活動だと感じた。特に、郡山市と地元の農家・ワイナリーと提携して、果樹栽培から酒の醸造、販売までを行う6次産業化という新しい経営システムの提案は画期的であると思った。

日々情報收拾を欠かさず、世界の情勢・需要の移り変わりを捉える視野の広さが、国内外における経済振興を促す広範な密度の濃い活動につながっていると分かった。

そして、私達が将来世界を舞台として仕事をする上で目標となる社員の皆様から、お話を伺うことが出来た。

一つ目のテーマは、日本と海外の常識・文化・価値観の違い。外国人に比べた日本人の積極性の低さが挙げられた。その理由として、単一民族の中で暮らす日本人に対し、多様な民族の中で暮らす外国人はコミュニケーションにおいて、より切羽詰まった状況に置かれていることが考察された。外国人との対話では、歴史や宗教等互いの背景を理解し、伝えようという意志を持つことが重要だと分かった。

二つ目のテーマは、学生時代に培うべき力。意見の発信者・受信者双方の心掛けについて話し合った。

発信者として、第一に英語力が挙げられた。英語では、始めに結論を話し、その後理由や補足が話されることが多い。ただ英語を身に付けるだけでなく、順序立てた婉曲的でない話し方も見習うべきであると考えた。第二に、そもそも発言自体に消極的であることの改善が挙げられた。自分の発言が少しでも物事を前進させるかもしれない、少しでも議論を深めるかもしれない、というプラス志向を持つことが第一歩というお話を頂くことができた。

受信者としては、ディベートの途中であっても相手の話を遮らないこと、それぞれの立場・視点によって意見は異なるという前提で、自分と相手の考えを客観的に判断するというアドバイスを頂いた。

その他の点では、普段から一人一人の努力をよく気に掛けるだけでも、その人の手助けになることがあるかもしれないし、適材適所な仕事の分担につながるというお話を伺って、思いやりが仕事の潤滑油であると思った。

このような社員の皆様とのお話を通して、国内外問わず多くのビジネスパートナーを得て仕事を充実させるためには、すれ違いを恐れず、相手にぶつかっていく程の意気が必要だと感じた。

2OB・OGによる懇談会

東大生といえば、自分とはかけ離れた存在のように感じていた。しかし、同じ二高という環境で励んでいた先輩方のお話からは、きっと勉強のコツや進路決定の見通しが得られるだろうという期待もあった。

まず、進路については、少し遠目にゴール設定をすると良いということだった。そのためには、限界を自分で決めず、周囲の人に意見を求めてみることも大切だそう。また、大学では何を学びたいのか、どんな仕事に就きたいのか、考えた上で決定しないと後に失速してしまうということだった。

漠然と学部だけを考えるだけでは不十分だと気づき、自分の興味・関心を見つめ直す必要があると思った。先輩のアドバイスの中で面白いと感じた言葉は、「良い仕事でなく、良い生活を目指せ」というものだった。人の為になる仕事というのはたくさんあって迷いやすいが、豊かな生活は揺らぐことのない目標となるという意味だ。とにかく、疲れた時でも、これのためなら頑張れる、と思えるものを必ず一つは持つことが大事なのだろう。

学習面では、受験やテストの前にどれくらい積み重ねが必要か逆算することが大事であるということだった。計画的な生活のためには、同じ部に所属する人をペースメーカーにすると良いそうだ。部活動等、打ち込めるものが他にあることは、大学で勉強におけるレベルの高い人ばかりに囲まれたとき、自分を見失わないための支えにもなる、というお話は印象的だった。また、自分に必要な睡眠時間を理解し確保しなければいけないと聞き、勉強以外のことに割いている時間を分析し、無駄を作らないようにすべきだと感じた。ついだらけてしまうという悩みに対しては、暗記等の作業と記述問題等の深い思考を必要とするものを交互に時間割を組み立てる、早起きしたときだけ趣味の活動をする、などといった解決策が挙げられ、学習のモチベーションが上がった。経済学部を目指す人は数学を伸ばすために理系を選択するのも一つの手である、などという各進路におけるアドバイスも頂き、とてもためになった。

東大生の、自分の勉強の方針を確立し、工夫を惜しまない姿勢を見習っていきたいと感じた。

3 企業大学訪問

国土交通省についての事前調査では、その仕事の幅広さに驚き、各組織と私達の生活との関連を把握しきることは難しかった。東日本大震災を受けた復興・防災への取組や、空港の民営化、東京オリンピックへの対応等、最近の話題だけでも様々な業務に追われていることが想像される中で、国の基盤としての在り方を捉えようと考え訪問した。

仕事内容の説明を聞き、日常生活や企業活動は国土交通行政無しには成り立たないと再認識できたが、それ故に与える影響が大きいということも心に留めておかなければいけないのだと感じた。道路や鉄道、海上輸送や航空輸送、どのような交通手段においても、一つトラブルが起きるだけで何百、何千という人々の移動が妨げられる。日々全国の交通拠点を管理し、更なる安全性や利便性の向上を図るといった、常に万全を期すという意識が大事なのだと思った。更に、交通網の整備は経済活動の発展にも関わっている。周辺に企業が進出すれば雇用を生み出すし、人の移動が活発になれば観光業が栄えるというように、地域振興のきっかけを作ってもいる。また、高齢化や都市への人口の集中といった社会問題への対応も重要である。バリアフリー化やコンパクトシティ化、過疎地域での交通網の維持等は、人々の需要を適切に理解する思いやりから成り立つ仕事であると感じた。そして、災害への備えも急がれている。東日本大震災での甚大な被害については「想定外」という言葉がメディア等を通して何度も聞かれた。国土交通省では、そのような被害を軽減させ、影響を出来る限り小さく抑えようとする「減災」のため、最新の免震設備が取り付けられている。これを先駆けとして全国に広く普及することが望まれる。

国土交通省は、国民全体の安全・安心を守り、人・物の確実にスムーズな交流を助けている。